

# 山林火災のサルベージ材を再生可能エネルギーに。

すべての写真はCentral Chilcotin Rehabilitation Ltd.より提供されました。

カナダの持続可能な森林経営に向けた取り組みは森林再生を根底に置いています。伐採を行ったときも、火災、虫害など、天災で林地が被害を受けたときにも、森林の再生を行わなければなりません。自然再生に任すのか植林を行うのかを問わず、森林が健全で生産性を発揮し、炭素の貯留を続けるための再生が必須です。これと全く同じ理念でカナダの木質ペレット産業も活動しています。林業と製材業の残材、すなわち以前は廃材とされていたものからペレットを100%生産。世界に向けて再生可能かつ低炭素のエネルギーを提供しています。

今日では、イノベーションのおかげで、林野火災の被害林に森林再生という理念を大々的に適用できるようになりました。つまり、焼けた被害木を回収し、生態系を復活させ、再生可能エネルギーを生み出すのです。ブリティッシュ・コロンビア州の内陸中部では、セントラル・チルコーティン・リハビリテーション社（Central Chilcotin Rehabilitation Ltd. (CCR)）がこの取り組みを行っています。

CCRは、先住民族所有による企業で、森林再生、野生動物の生息地復旧、木質繊維の利用拡大によって森林復活を目指しています。



被害木を回収することで火災リスクを下げ、森林の健全性を取り戻し、被害木を利用可能な木質繊維原料に転換することで、地元の雇用創出、パルプとペレットのための再生可能な原材料を提供しているのです。

### 価値の回収とリスクの低減

近年のブリティッシュ・コロンビア州の林野火災は未曾有の規模となっています。歴史的な2017年の火災シーズンには、州内陸部のあちこちで発生した火災が合流して激甚化し、54万ヘクタール以上を焼きました。プラトーコンプレックス火災（合流火災）として記憶されています。その広大な跡地に残された立木は



2017年プラトーコンプレックス火災(合流大火)、54万ヘクタール以上を焼く

小径でかなり炭化してしまっていて製材品にはなりません。しかし、立木は大量でしかも密生していて、そのまま放置すると次の火災で燃え上がる可能性が十分にあります。

CCRは、これに違う将来性を見たのです。立ち枯れた被害木が朽ちる前に回収して加工することで、林地の燃料量を減らし、芽吹きはじめる若木を保護し、林地全体を今まで以上に健康的でレジリエントな状態に復活させます。

### 慎重に計画、実効的な成果

CCRは、火災被害林を責任のある形で回復させるにはどうすべきかを理解するために、2017年のエレファントヒル火災の跡地で、被害木回収、森林復旧作業を小規模で始めました。当初から、CCRは慎重な計画策定、マッピング、自然保護を強調し、影響を受けやすい場所や野生生物の生息地を同定し、自分たちの作業が終わった後で自然再生が活発になるようにしました。

こうして学んだことが結集して、現在、ポーマーレイク近くで実践されている事業方式となっています。CCRは、そのまま放置されると朽ち果てるしかない小径の被害木を回収し、パルプチップと木質ペレットに加工し、カスケード利用の明確な実例としています。カスケード利用とは、立木のあらゆる

部位を活用するものです。同事業は10年ほど継続の見込みで、地元の雇用を支え、再生可能な木質繊維を安定供給します。

### 環境と地元への恩恵

CCRの事業モデルは広範囲に及ぶ恩恵を生み出します。生態系に対しては、火災の再発を防止し、野生生物の生息地を守り、広大な面積全体の自然再生が早く進むようにします。若木の生育しやすい環境が生まれ、長期にわたって炭素貯留量が増えるのです。経済面では、地元の実業界と雇用を支えながら、再生可能な低炭素のエネルギーを世界のペレット市場に供給しています。CCRは、火災から8年経った今でもやり方さえ気をつければ木質繊維の回収が可能であることを実証し、かつては廃棄するしかないとされていたものを、低炭素の循環経済を進める製品に変身させています。

### パートナーシップがあればこそ

CCRの成功は協業体制があって構築されたものです。政府とのパートナーシップは、計画立案と自然保護という大きな初期コストを助けてくれましたし、実業界とのパートナーシップは、採算性にとって不可欠であるスケールメリットと市場を提供してくれました。こうして協力することで、林野火災の被害林を再生途上の自然の姿に変え、雇用を支え、火災リスクと炭素排出量を低減し、将来の低炭素社会の電源の一環である木質ペレットに再生可能な木質繊維を供給しています。

